

2 前期5年間の取組み状況

豊橋市母子保健推進計画（第2次）の3基本計画に掲げられた各項目について、策定時の数値と現状（平成28年度）の数値に基づき、評価しました。

評価区分	
A	改善している
B	変わらない
C	悪化している
D	評価困難

【基本方針1】性や命の大切さを理解し、親となるための準備ができる

1-1 親となるための心やからだづくりができ、健康管理ができる

主な取組み	<p>(1) 基本的生活習慣の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児期の離乳食から食生活の大切さの知識啓発や食育の相談等を地域の子育てサークルなどで実施してきました。 ・学校と連携し、児童・生徒を対象に喫煙や飲酒、食生活に関する出前講座等を開催し正しい知識の啓発に取り組んできました。 <p>(2) 命の大切さを理解し、妊娠や性感染症に関する正しい知識の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生に対し、赤ちゃんを抱っこしたり、お母さんの思い等を聞いたりする赤ちゃんふれあい体験事業を実施し、命の大切さや性に対する知識の普及に取り組みました。 ・高校生や大学生を対象に、妊娠に適した年齢や望まない妊娠を防ぐ避妊等の知識の普及に取り組んできました。
目標項目	

①基本的生活習慣の確立

目標項目		策定時	現状	目標	現状評価	目標	調査・資料
		平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
朝食を毎日食べる子どもの割合	3歳児	93.3%	94.3%	100%	A	100%	こども保健課 健康づくりに関するアンケート
	小学6年生	84.3%	82.4%		C		
	中学3年生	76.4%	77.9%		A		
	高校3年生	78.5%	75.1%		C		
これまでの1年間で、学校の体育の授業以外に週1回以上運動をする小学6年生の割合		87.8%	86.3%	90%	C	95%	健康づくりに関するアンケート
肥満傾向にある小学生の割合 (5年生の肥満傾向の児の割合)	男子	10.7%	9.9%	10%	A	9.5%	学校保健統計調査
	女子	7.6%	8.1%	7.5%	C	7.4%	

②未成年者の喫煙をなくす

目標項目			策定時	現状	目標	現状評価	目標	調査・資料
			平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
未成年者の喫煙の割合	中学3年生	男子	0.0%	0.5%	0%	C	0%	健康づくりに関するアンケート
		女子	0.0%	0.0%	0%	A		
	高校3年生	男子	3.9%	1.9%	0%	A	0%	
		女子	0.0%	0.0%	0%	A		

③未成年者の飲酒をなくす

目標項目			策定時	現状	目標	現状評価	目標	調査・資料
			平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
未成年者の飲酒の割合	中学3年生	男子	3.2%	2.8%	0%	A	0%	健康づくりに関するアンケート
		女子	2.0%	1.8%	0%	A		
	高校3年生	男子	9.6%	6.9%	0%	A	0%	
		女子	11.2%	2.3%	0%	A		

④望まない妊娠を避ける

目標項目		策定時	現状	目標	現状 評価	目標	調査・ 資料
		平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
人工妊娠中絶実施率（人口千人対）	15～19歳	6.4	5.7	6	A	5	愛知県母 体保護統 計
	20～24歳	11.2	10.2	10	A	9	

⑤性や性感染症に関する知識の普及

目標項目		策定時	現状	目標	現状 評価	目標	調査・ 資料
		平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
避妊方法を正確に知っている割合	高3男子	32.8%	34.6%	50%	A	60%	健康づく りに関す るアン ケート
	高3女子	42.5%	33.2%	50%	C	60%	
自分の身体をいつも大切にしている割合	中学3年生	65.0%	63.9%	85%	C	90%	
	高校3年生	78.1%	75.7%	85%	C	90%	
親と性についてよく話し合う割合	中学3年生	14.6%	—	30%	D	35%	
	高校3年生	15.1%	—	30%	D	35%	
性器クラミジア患者定点報告数	15～19歳	13人	9人	11人	A	8人	健康政策課
	20～24歳	54人	28人	52人	A	25人	
今までに聞いたこ とのある性感染症の 割合	性器クラミジア 感染症	68.5%	66.9%	80%	C	90%	健康づく りに関す るアン ケート
	淋菌感染症	31.2%	32.9%	40%	A	45%	

分析

- ・朝食を毎日食べる子どもの割合は、子どもの成長に伴い減少しました。
- ・学校の体育の授業以外に週1回以上運動する小学6年生の割合は減少しました。
- ・肥満傾向にある小学5年生（女子）の割合は増加しました。
- ・避妊方法を正確に知っている高校3年生（女子）の割合は減少しました。

課題

- ・保護者には乳幼児期からの食習慣の大切さを伝えるとともに、学校等と連携して児童・生徒に対して朝食を含め3食しっかり食べることの大切さを啓発していく必要があります。
- ・スマートフォンや携帯端末機等の急速な普及に伴い、屋外で運動をしない子どもが増えている状況にありますが、運動は子どもの心身の成長や健康維持・増進に重要であることから、運動習慣の定着を学校に促していく必要があります。
- ・引き続き、喫煙や飲酒などがもたらす害を子どもに周知するため、関係機関と連携した取組みが必要です。
- ・命の大切さを理解し、お互いの心と体を尊重しながら性について考え行動する知識の普及とともに、乳児や産婦と触れ合うことができる環境づくりが必要です。
- ・望んだ時期の妊娠について、妊娠に適した年齢と適切な避妊方法の知識やスキルを高める必要があります。

【基本方針2】安心して妊娠・出産ができる

2-1 望んだ妊娠・出産ができる

主な取り組み	<p>(1) 妊娠期の保健・医療サービスの充実及び妊娠中の健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健康診査の早期開始と定期的な受診を勧奨しました。 ・喫煙や飲酒が胎児に及ぼす影響について、妊娠届出時の面接で指導が必要な妊婦とその家族等へ知識の提供をしました。 ・保健所・保健センター及びこども未来館ここここへ「妊娠・出産・子育て総合相談窓口」を開設しました。妊娠届出時には、全ての妊婦と面接し妊娠期からの不安や子育ての相談等に対応できるよう体制を整備しました。 ・リスク要因のある妊婦を支援するため、妊娠期からの家庭訪問を充実させました。 ・妊娠期から連絡票を活用し、医療機関と保健機関との継続的な連携を行いました。 <p>(2) 不妊の相談や支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不妊治療の経済的負担の軽減を図るため、国及び県の補助制度を活用し、治療に要する費用の一部助成を行いました。 ・高校生や大学生を対象に妊娠に適した時期等の知識を普及しました。 ・不妊の悩みを持つ方への対応として、必要に応じて補助金の申請窓口にて相談に応じました。
--------	---

目標項目

①妊娠中の健康管理

目標項目		策定時	現状	目標	現状評価	目標	調査・資料
		平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
妊娠届出週数の割合	11週以内	91.9%	94.5%	95%	A	100%	こども保健課
	28週以降	0.4%	0.3%	0%	A	0%	
喫煙する妊婦の割合		3.4%	2.1%	0%	A	0%	出産・子育てに関するアンケート
飲酒する妊婦の割合		2.7%	0.4%	0%	A	0%	
妊娠中の不安を軽減できた妊婦の割合		68.9%	53.9%	75%	C	80%	

分析

- ・妊娠11週以内での届出が増加しており、妊娠初期からの健康診査が実施できています。
- ・喫煙及び飲酒する妊婦の割合は減少しました。
- ・妊娠中の不安を軽減できた妊婦の割合は減少しました。

課題

- ・妊娠・出産に対する不安を軽減できるよう、妊娠期からの継続した支援体制の整備や医療機関との連携強化が必要です。
- ・不妊や不育症の相談に対応するため、専門職による支援とプライバシーに配慮した環境下での相談体制が必要です。

2-2 妊娠・出産を支える力が豊富にある

主な取組み	<p>(1) 妊娠・出産を支える環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「妊娠・出産・子育て総合相談窓口」では、保健師などが妊娠届出時に面接を行ない「mama サポートプラン」を作成し、相談支援と情報提供を行いました。 ・初産婦や転入者等へは、夫をはじめ家族の支援の必要性を説明し、民間の家事支援サービス等の利用を提案しました。 ・核家族等で支援者が不十分な経産婦へは、年長児の一時保育やファミリー・サポート・センター等の活用を提案しました。 ・就労妊婦へは、母性健康管理指導事項カードを提示し、職場の理解を得て健康な妊娠期を過ごせるよう指導しました <p>(2) 妊娠前からの低出生体重児対策及び出産後の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期からの生活習慣や食生活及び適正体重が、低出生体重児の発現に与える影響などについて、女性の健康支援事業を通じて啓発しました。 ・妊娠期には、妊娠中の推奨体重増加量の指導や管理栄養士による栄養相談を実施しました。また、妊娠届出時、妊産婦教室、4か月児健康診査時を通して、低出生体重児の要因の一つとなる喫煙や飲酒、口腔衛生の正しい知識の普及を行いました。 ・低体重児出生届と連絡票により出生の把握後、早期に母子支援を開始しました。
目標項目	

①家族・近隣・職場などの支援の推進

目標項目		策定時	現状	目標	現状評価	目標	調査・資料
		平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
妊娠中、右記の人たちから配慮や支援があった割合	家族	94.9%	96.3%	100%	A	100%	出産・子育てに関するアンケート
	近隣や仲間	72.3%	58.6%	80%	C	90%	
	職場	74.5%	—	80%	D	90%	
就労女性のうち母性健康管理指導事項カードを知っている妊婦の割合		35.1%	37.6%	50%	A	60%	

②低出生体重児の割合の減少

目標項目		策定時	現状	目標	現状評価	目標	調査・資料
		平成23年	平成28年	平成29年		平成34年	
低出生体重児数と割合 (平成28年 出生数3,052人)	出生数	336人	288人	—	—	—	愛知県衛生年報
	割合	9.6%	9.4%	9.3%	A	9%	

③妊婦や家族の喫煙の割合

目標項目		策定時	現状	目標	現状評価	目標	調査・資料
		平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
喫煙する妊婦の割合(再掲)		3.4%	2.1%	0%	A	0%	出産・子育てに関するアンケート
同居家族の喫煙率(4か月児の父親)		38.2%	34.1%	30%	A	20%	こども保健課

④妊娠中の歯と口腔の健康の確保

目標項目		策定時	現状	目標	現状 評価	目標	調査・ 資料
		平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
妊産婦歯科健康診査受診率	豊橋市	38.0%	47.2%	40%	A	50%	地域歯科保健 業務状況報告
	愛知県	32.4%	34.8% (H27)	—	—	—	
妊産婦歯科健康診査時に進行した歯肉炎を有する者の割合	豊橋市	40.8%	41.7%	30%	C	20%	

分析

- ・妊娠中、近隣や仲間から配慮や支援のあった割合は減少しました。
- ・就労女性のうち母性健康管理指導事項カードを知っている妊婦の割合は増加しました。
- ・低出生体重児の割合は減少しました。
- ・喫煙する妊婦及び同居家族の喫煙率はともに減少しました。
- ・妊産婦歯科健康診査の受診率は上昇していますが、歯肉炎を有する者の割合は増加しました。
- ・多胎の妊娠は減少しましたが、女性のやせの割合は増加しました。

課題

- ・近隣や仲間からの配慮を得るために、地域の信頼関係や人々の結びつきの構築を視野に、妊娠中から地域活動等に参加できる仕組みづくりを検討する必要があります。
- ・進行した歯肉炎を有する妊産婦を減少させるために、妊娠期からの口腔衛生の指導が必要です。
- ・女性のやせへの対策として、妊娠前からの食生活や適正体重の啓発が必要です。

【基本方針3】いきいきと子育てができ、子どもが健やかに成長できる

3-1 心身ともに健やかに成長し、子育てができる

主な取組み	<p>(1) 子育てに関する正しい知識の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離乳食に関する問い合わせが増加していることから、家庭訪問や乳幼児健康診査などの機会を通して、乳幼児期からの食育の大切さについて周知しています。 ・平成28年7月に開設した「妊娠・出産・子育て総合相談窓口」で専任のママサポーターやチャイルドサポーターによる子育て相談を行い、必要に応じて必要なサービス機関との調整を行っています。 ・乳幼児健康診査を受けていない子どもは地区担当保健師が電話や訪問等で子どもの養育状態の把握に努めています。また、必要に応じ、福祉部門と連携し情報を共有しています。 <p>(2) 家庭における基本的な生活習慣の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期に基本的な生活習慣が形成されるよう1歳6か月児健康診査や3歳児健康診査時において「早寝早起き朝ごはん」についての指導を実施しています。 <p>(3) 病気や感染症の予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児家庭全戸訪問時に、予防接種の説明に併せ、かかりつけ医師を持つように指導しています。 ・離乳食講習会を活用し、正しい歯みがきの仕方やむし歯、歯周病の知識の普及を実施しています。 <p>(4) 発達障害児をはじめとする障害や病気の早期発見・早期支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4か月児健康診査や1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査では、病気や障害の早期発見・早期支援を行っています。特に1歳6か月児健康診査では、言葉や発達のゆっくりな子どもの保護者に対し、関わり方などのアドバイスを行ったり、必要時継続して支援し、健診事後相談や健診事後教室等を紹介しています。また、その子に応じた療育機関を紹介しています。
目標項目	

① 出産後の育児不安の軽減

目標項目		策定時	現状	目標	現状評価	目標	調査・資料
		平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
乳児家庭全戸訪問実施率	実施率	97.8%	93.0%	99%	C	99%	こども保健課
	実施数	2,756件	2,283件	—	—	—	
これまでの子育てに不安を感じた3歳児の母親の割合		63.8%	68.9%	60%	C	55%	出産・子育てに関するアンケート

②子ども及び子育てに関する情報提供などサービスの充実

目標項目		策定時	現状	目標	現状 評価	目標	調査・ 資料
		平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
乳児健康診査(医療機関) 受診率		88.6%	92.8%	90%	A	95%	こども保健課
乳幼児健康診査受診率	4か月児	97.1%	97.6%	98%	A	99%	
	1歳6か月児	96.4%	96.6%	97%	A	98%	
	3歳児	92.9%	95.4%	94%	A	95%	
乳幼児健康診査未受診者の内、状況把握 ができた割合(人)	4か月児	93.5%	100%	100%	A	100%	
		129人	201人	—			
	1歳6か月児	86.5%	100%	100%	A	100%	
		166人	227人	—			
	3歳児	80.9%	99.6%	100%	A	100%	
		237人	234人	—			

③母乳育児の推進

目標項目		策定時	現状	目標	現状 評価	目標	調査・ 資料
		平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
生後1か月児の母乳育児の割合		47.0%	48.4%	55%	A	60%	こども保健課

④基本的な生活習慣の確立

目標項目		策定時	現状	目標	現状 評価	目標	調査・ 資料
		平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
朝食を毎日食べる3歳児の割合(再掲)		93.3%	93.8%	100%	A	100%	こども保健課
午後9時までに就寝する3歳児の割合		19.7%	23.5%	40%	A	50%	
テレビ・DVDを1日に4時間以上視聴する3歳児の割合		6.8%	5.3%	6%	A	5%	

⑤適切な受診行動の促進

目標項目		策定時	現状	目標	現状 評価	目標	調査・ 資料
		平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
かかりつけ小児科医を持つ1歳6か月児 の親の割合	豊橋市	94.6%	96.9%	100%	A	100%	出産・子 育てに関 するアン ケート
	国	83.8%	100%	100%	—	—	H21(「健やか 親子21」第2 回中間評価)
休日夜間急病診療所を知っている4か月児の親の割合		87.9%	92.3%	100%	A	100%	出産・子 育てに関 するアン ケート

⑥感染症の予防

目標項目		策定時	現状	目標	現状 評価	目標	調査・ 資料
		平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
むし歯のない3歳児の割合	豊橋市	75.6%	82.4%	80%	A	85%	こども保健課
	愛知県	84.9%	88.8%	—	—	—	愛知県マニ アル報告
	国	74.1%	80%以上	80%以上	—	—	H21(「健やか 親子21」第2 回中間評価)
定期予防接種の接種率		93.8%	92.2%	95%	C	97%	健康政策課

⑦発達障害をはじめとした障害や疾病の早期発見

目標項目		策定時	現状	目標	現状 評価	目標	調査・ 資料
		平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
乳幼児健康診査受診率（再掲）	4か月児	97.1%	97.6%	98%	A	99%	こども保健課
	1歳6か月児	96.4%	96.6%	97%	A	98%	
	3歳児	92.9%	95.4%	94%	A	95%	

分析

- ・子育てに不安を感じた3歳児の母親の割合は増加しました。
- ・乳幼児健康診査の受診率は96%前後で推移しています。
- ・生後1か月児の母乳育児の割合は増加しました。
- ・午後9時までに就寝する3歳児の割合は増加しました。
- ・かかりつけ小児科医を持つ1歳6か月児の親の割合は増加しました。
- ・休日夜間急病診療所を知っている4か月児の親の割合は増加しました。
- ・むし歯のない3歳児の割合は増加しました。

課題

- ・妊娠・出産・子育て総合相談窓口での面接や、家庭訪問、健康診査等を通して相談業務などを行っていますが、必要な時期に必要な情報が入手できるように取り組む必要があります。
- ・妊娠から出産までの期間の母親は心身ともに不安感を抱えていることから、早期に家庭訪問等の支援が必要です。
- ・産後安定した育児ができるよう、母乳指導等の授乳支援が必要です。
- ・離乳食についての相談が多いことから、気軽に相談できる場所が必要です。
- ・健康診査未受診の乳幼児については引き続き、受診勧奨を行い、養育状況などを把握するとともに福祉部門と連携していく必要があります。
- ・2歳児歯科健康診査等の受診を勧め、むし歯や歯周病についての正しい知識を普及する必要があります。
- ・発達障害をはじめとする病気の早期発見や早期治療につなげるために、体制整備などを検討していく必要があります。
- ・幼児期からスマートフォンや携帯端末機等を与える保護者が多い傾向にあることから、与える時期のメリットとデメリットを健康診査等で周知する必要があります。

3-2 家庭全体で育児を支えることができる

主な取組み	<p>(1) 家庭での育児力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ここにこサークル等の地域で気軽に育児相談ができるようにしました。 上の子がいる妊婦については、ファミリー・サポート・センターなど民間で実施している育児サービスの紹介をしています。 乳児家庭全戸訪問時において看護師等が体重測定や育児相談、育児情報の提供等を実施しています。 <p>(2) 虐待を防止するため妊娠期からの支援と子育て中の虐待の予防</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童相談書共通ダイヤル「189 (いち・はや・く)」の周知を行なっています。 産婦人科医療機関や関係機関と連携し、問題やリスクを抱える家庭への支援を行なっています。 妊娠・出産・子育て総合相談窓口にて妊娠期からの相談体制を構築し、妊娠期から虐待予防を含めた支援ができるように関係機関と連携しています。 乳児家庭全戸訪問等で不安や心配が強い保護者には、継続して訪問等で支援を実施しています。 <p>(3) 乳幼児突然死症候群の予防と家庭での事故防止</p> <ul style="list-style-type: none"> うつぶせ寝による危険性などについて、4か月児健康診査で集団指導を実施しています。 家庭内で発生する可能性の高い、誤飲、転倒等の事故防止については乳幼児健診時等で周知しています。 同居者等の喫煙による胎児への影響についてリーフレット等を活用して周知しています。
-------	--

目標項目	
------	--

①家族の育児力の強化

目標項目	策定時	現状	目標	現状評価	目標	調査・資料
	平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
3歳児の子育て(育児)に参加する配偶者の割合(よくしている)	36.0%	36.8%	40%	A	55%	出産・子育てに関するアンケート
3歳児の母親の精神的支えになっている配偶者の割合	64.7%	63.8%	70%	C	75%	

②子育て中の虐待予防

目標項目		策定時	現状	目標	現状評価	目標	調査・資料
		平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
子どもを虐待しているのではないかと 思う3歳児の母親の割合	豊橋市	27.6%	24.7%	20%	A	10%	出産・子育てに関するアンケート
	国	14.1%	—	10% (H26目標値)	—	—	
配偶者が子どもを虐待しているのではないかと 思う3歳児の母親の割合	豊橋市	3.9%	5.1%	3%	C	2%	出産・子育てに関するアンケート
子育ての相談相手は「いない」と答える 保護者の割合	4か月児	1.6%	1.7%	1%	C	1%未満	
	1歳6か月児	1.8%	1.9%	1%	C	1%未満	
	3歳児	2.2%	1.5%	1%	A	1%未満	
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる 母親の割合	4か月児	88.9%	90.2%	90%	A	95%	子ども保健課
	1歳6か月児	78.8%	77.0%	85%	C	90%	
	3歳児	71.1%	72.9%	75%	A	80%	

③家庭での事故防止

目標項目		策定時	現状	目標	現状 評価	目標	調査・ 資料
		平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
事故防止対策を実施している家庭の割合 (各年齢の主要な対策について)	4か月児	80.1%	75.7%	85%	C	90%	こども保健課
	1歳6か月児	46.8%	44.7%	55%	C	60%	
	3歳児	90.4%	94.7%	95%	A	98%	
心肺蘇生法を知っている親の割合 (3歳児の親)	豊橋市	39.0%	41.9%	50%	A	60%	出産・子育てに関するアンケート
	国	18.3%	—	100% (H26年度目標値)	—	—	H21(「健やか親子21」第2回中間評価)

④乳幼児突然死症候群の予防

目標項目		策定時	現状	目標	現状 評価	目標	調査・ 資料
		平成23年度	平成28年度	平成29年度		平成34年度	
乳児期にうつぶせ寝をさせている親の割合	豊橋市	9.2%	0.7%	なくす	A	なくす	出産・子育てに関するアンケート
	国	0.7% (H21)	—	※なくす	—	—	H21(「健やか親子21」第2回中間評価)
生後1か月児の母乳育児の割合 (再掲)	豊橋市	47.0%	48.4%	55%	A	60%	こども保健課
喫煙する妊婦の割合 (再掲)	豊橋市	3.4%	2.1%	0%	A	0%	出産・子育てに関するアンケート
同居家族の喫煙率 (4か月児の母親)	豊橋市	3.0%	2.9%	2%	A	1%	こども保健課
同居家族の喫煙率 (4か月児の父親) (再掲)	豊橋市	38.2%	34.1%	30%	A	20%	

分析

- ・子どもを虐待しているのではないかとと思う3歳児の母親の割合は減少しましたが、配偶者が子どもを虐待しているのではないかとと思う3歳児の母親の割合は増加しました。
- ・ゆったりとした気分で子どもと過ごせる母親の割合は4か月児と3歳児では増加しましたが、1歳6か月児では減少しました。
- ・事故防止対策を実施している家庭の割合は、4か月児と1歳6か月児のいる家庭では減少しました。
- ・乳幼児期にうつぶせ寝をさせている親の割合は減少しました。

課題

- ・民間が行っている支援サービス等を活用していくことが必要です。
- ・父親の育児への積極的参加を促していく必要があります。
- ・乳幼児の食中毒や年齢に合った摂取可能な食べ物を周知する必要があります。
- ・乳幼児期の事故防止について、月齢にあった予防を周知する必要があります。
- ・チャイルドシートを未設置による事故、自転車補助席の後輪で幼児が足を巻き込む事故等を乳幼児健康診査などで注意喚起していく必要があります。
- ・地域で子育てのサポートがしていけるような体制整備が必要です。